



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第1巻第
2号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第1巻第2号). 泌尿器科紀要 1955, 1(2): 141-141

ISSUE DATE:

1955-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111053>

RIGHT:

編集後記

第14回日本医学会総会が本年4月京都にて開かれ3万人の会員が集まり空前の盛況裡に終始したのと同時に第43回日本泌尿器科学会も行われ之亦盛会裡に終つた事は開催地の我々として感激に堪えない。唯設備万端不行届にて会員諸氏に御迷惑をかけた事を御詫びせねばならぬ。



今回の学会を記念するが如くに本誌が創刊出来た事を我々は深く喜んでいる。創刊号は教室の研究業績集の形式をとつたが第2号からは会員制度として経営してゆく筈で諸方面からの御支援、御鞭撻を切望する。尚第3号の編集締切は7月末、発行は9月末の予定である。



中部地方会、近畿集談会、京都集談会の泌尿器科演説抄録も掲載する。之ら学会の機関誌を兼ねてもよいと考えている。



本年の地方会は東日本が10月8・9日東京にて日本医大主催、西日本は10月22~23日長崎大学にて、中部は11月3日名古屋大学にて行われる。来年の日本泌尿器科学会は北大にて7月日頃に行われ宿題報告北大辻教授「下部尿路通過障害」、特別講演札幌医大外塚教授「尿道の形成手術」等である。



先般の日本泌尿器科学会評議員会にて「泌尿器科講座確立に関する建議案」が議せられ署名簿が作成せられて関係方面への運動が進められる事となつた。本問題の歴史は古いが種々の理由によつて未だ全面的に進展する所までは行つていない。然し専門分科の進歩と共に皮膚科と泌尿器科とが一つの枠内にあることはもはや許されない。湿疹の診療と腎結核のそれとが同一人によつて完遂せられるとは考えられぬ。殊に大学に於ては両科が独立して専門的に研究を行わねばならぬ。之に対して最大の障碍となつているのは「大学院設置審査基準要項」中に「少くとも次の講座がおかれていなければならない」として「皮膚科学及泌尿器科学1」と記されている点である。この条文の改正を計る事が目下の急務である。当局の意向は一般に講座新設を認めない由であるが我々は此の難関を打開する様に万全の措置を講ぜねばならぬ（編集者）。

購 賃 要 項

1. 発行は当分の間季刊（年4回）とする。
2. 会員は年間料金400円を前納する。一冊料金100円。但し第1巻は3冊分として300円を前納する。払込は振替口座番号 京都 4772 番 泌尿器科紀要編集部。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、寄稿者は本会々員に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。
4. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用うこと。
5. 掲載料は毎頁500円、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
6. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
7. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院泌尿器科紀要編集部。